

平成25年度 山形市社会福祉事業団 事業報告書

1 事務局

(1) 理事会の開催

- ① 第148回理事会（5月27日）……市役所
（審議事項）
 - 平成24年度事業報告について
 - 平成24年度一般会計決算及び特別会計決算の認定について
- ② 第149回理事会（7月8日）……市役所
（審議事項）
 - 評議員の選任について
- ③ 第150回理事会（7月22日）……山形グランドホテル
（審議事項）
 - 副理事長の選任について
 - 平成25年度一般会計補正予算及び特別会計補正予算について
 - こまくさ学園運営規程の一部改正について
 - 恵光園運営規程の一部改正について
 - 蔵王通勤寮運営規程の一部改正について
 - 指定児童発達支援事業ひよこ教室運営規程の一部改正について
 - 指定放課後等デイサービス風の子運営規程の一部改正について
 - 指定共同生活援助事業所蔵王運営規程の一部改正について
- ④ 第151回理事会（11月27日）……山形商工会議所会館
（審議事項）
 - 山形市高齢者世話付住宅（市営南山形住宅）生活援助員派遣事業業務の受託について
 - 山形市高齢者世話付住宅（市営南山形住宅）生活援助員派遣事業業務事業計画について
 - 平成25年度一般会計補正予算について
- ⑤ 第152回理事会（3月26日）……市役所
（審議事項）
 - 平成25年度一般会計補正予算について
 - 平成26年度事業計画について
 - 平成26年度一般会計予算及び特別会計予算について
 - 就業規則の一部改正について
 - 育児休業等に関する規程の一部改正について
 - 介護休業等に関する規程の一部改正について
 - 指定児童発達支援事業ひよこ教室運営規程の一部改正について
 - 指定放課後等デイサービス風の子運営規程の一部改正について
 - 指定共同生活援助事業所蔵王運営規程の一部改正について

- 副理事長の選任について
- 施設長の任免について

(2) 役員の異動について

就任 安達 敏美 平成25年5月27日
 就任 八戸 宏 平成25年7月21日

退任 横尾 成美 平成25年7月20日
 退任 栗原 啓市 平成26年3月31日

(3) 評議員会の開催

① 第58回評議員会（5月27日）……市役所 （審議事項）

- 平成24年度事業報告について
- 平成24年度一般会計決算及び特別会計決算の認定について
- 理事の選任について

② 第59回評議員会（7月8日）……市役所 （審議事項）

- 役員の選任について

③ 第60回評議員会（7月22日）……山形グランドホテル （審議事項）

- 平成25年度一般会計補正予算及び特別会計補正予算について
- こまくさ学園運営規程の一部改正について
- 恵光園運営規程の一部改正について
- 蔵王通勤寮運営規程の一部改正について
- 指定児童発達支援事業ひよこ教室運営規程の一部改正について
- 指定放課後等デイサービス風の子運営規程の一部改正について
- 指定共同生活援助事業所蔵王運営規程の一部改正について

④ 第61回評議員会（11月27日）……山形商工会議所会館 （審議事項）

- 山形市高齢者世話付住宅（市営南山形住宅）生活援助員派遣事業業務の受託について
- 山形市高齢者世話付住宅（市営南山形住宅）生活援助員派遣事業業務事業計画について
- 平成25年度一般会計補正予算について

⑤ 第62回評議員会（3月26日）……市役所 （審議事項）

- 平成26年度一般会計補正予算について
- 平成26年度事業計画について
- 平成26年度一般会計予算及び特別会計予算について

- 就業規則の一部改正について
- 育児休業に関する規程の一部改正について
- 介護休業等に関する規程の一部改正について
- 指定児童発達支援事業ひよこ教室運営規程の一部改正について
- 指定放課後等デイサービス風の子運営規程の一部改正について
- 指定共同生活援助事業所蔵王運営規程の一部改正について

(4) 評議員の異動について

就任 池野 勇男 平成25年7月21日
 就任 伊豆田邦雄 平成25年7月21日
 就任 伊藤 博夫 平成25年7月21日
 就任 奥山 聖司 平成25年7月21日
 就任 服部 秀子 平成25年7月21日

退任 青山 久雄 平成25年7月20日
 退任 赤崎 侯夫 平成25年7月20日
 退任 市山 孝弘 平成25年7月20日
 退任 片桐 良一 平成25年7月20日
 退任 濱口 菊枝 平成25年7月20日

(5) 職員の採用について

- ① 平成25年4月1日付で指導員・相談員2名、介護員6名、保健師1名、看護師1名を採用した。
- ② 欠員補充等に伴う職員採用試験を実施し、1名が内定した。
 - 採用試験 平成25年10月12日
 指導員・相談員 受験者数 7名（応募者数9名）
 合格者 1名
- ③ 欠員補充等に伴う職員採用試験を実施したが、合格者はなかった。
 - 採用試験 平成26年3月2日
 介護員 受験者数 1名（応募者数1名）
 合格者 0名

(6) 情報公開について

なし

(7) 苦情解決について

- ① 第三者委員会の開催
 - 事業団本部開催 1回

② 第三者委員の異動について

- 就任 三瓶 賢也 平成25年4月1日

(8) 障がい者の雇用促進について

まんさくの丘，菅沢荘，あたご荘及び銅町デイサービスセンターにおいて障がい者5名を雇用し，障がい者の雇用促進に努めた。

(9) 事業団ホームページの運営について

平成25年1月から公開した事業団ホームページの運営を行い，事業団及び運営施設の紹介，イベント情報，採用情報及び運営状況の発信など情報の公開に努めた。

(10) 事業団創立30周年記念事業の実施について

平成25年7月7日に当事業団が創立30周年を迎えたことを記念して，以下の記念事業を実施した。

① 創立30周年記念式典及び祝賀会の開催

- 平成26年1月29日に山形グランドホテルにおいて，記念式典及び祝賀会を開催し，関係機関・団体，地域関係者及び役職員等159名の方からご出席を頂いた。
- 事業団及び施設の運営等にご協力を頂いた56の団体・個人の方に感謝状を贈呈した。
- 勤続30年の職員4名に表彰状を贈呈した。

② 記念誌の発行

平成26年1月29日に記念誌「山形市社会福祉事業団30年のあゆみ」を330部発行し，記念式典出席者，関係機関等へ配布した。

③ 記念クリアファイルの作成

平成25年7月22日に事業団施設の写真等を掲載した記念クリアファイル（B5判）を3,500枚作成し，各施設のおまつり等で地域関係者，一般市民及び利用者等に配布した。

2 土地・建物の状況

(1) まんさくの丘

• 土地 19,174.52㎡

所 在		地 番	地 目	地 積	
大 字	小 字			公 簿 ㎡	実 測 ㎡
蔵王半郷	寺 山	1,366~2	宅 地	11,533.88	16,644.62
蔵王半郷	寺 山	910	宅 地	178.51	178.51
蔵王半郷	寺 山	927~3	宅 地	120.56	120.56
蔵王半郷	寺 山	1,366~14	宅 地	214.87	214.87
蔵王半郷	寺 山	1,366~15	宅 地	1,024.39	1,024.39
蔵王半郷	寺 山	1,409~3	宅 地	109.32	109.32
蔵王半郷	寺 山	1,409~4	宅 地	238.81	238.81
蔵王半郷	寺 山	1,674~2	原 野	163.00	163.04
蔵王半郷	寺 山	1,597~2	畑	246.00	246.96
蔵王半郷	寺 山	1,601~3	畑	233.00	233.44
合 計				14,062.34	19,174.52

• 建 物 2,757.24㎡

1	管 理 棟	696.85㎡
2	こまくさ学園	544.20
3	恵 光 園	481.95
4	蔵王通勤寮	842.34
5	車 庫	100.00
6	車 庫	34.78
7	倉 庫	33.12
8	駐 輪 場	24.00
合 計		2,757.24

(2) 山形学園

• 土地 21,687.39㎡ (ただし、蔵王上野字南坂924より2,190.00㎡を除く)

所 在		地 番	地 目	地 積	
大 字	小 字			公 簿 ㎡	実 測 ㎡
蔵王上野	南 坂	924	宅 地	10,845.78	15,265.32
蔵王上野	南 坂	2,104	宅 地	2,776.82	3,635.51
蔵王上野	南 坂	914~3	原 野	192.68	206.17
上 野	南 坂	912~2	公衆用道路	249.00	249.38
上 野	南 坂	912~3	公衆用道路	26.00	26.02
上 野	南 坂	927~4	公衆用道路	657.00	657.64
上 野	南 坂	998~4	雑 種 地	58.00	58.08
上 野	南 坂	998~5	公衆用道路	385.00	385.39
上 野	南 坂	1,012~4	雑 種 地	339.00	339.84
上 野	南 坂	1,012~5	公衆用道路	520.00	520.36
上 野	南 坂	2,683~6	雑 種 地	91.00	91.99
上 野	南 坂	2,683~7	公衆用道路	251.00	251.69
合 計				16,391.28	21,687.39

• 建 物 1,702.18㎡

1	山 形 学 園	1,293.52㎡
2	体 育 館	319.25
3	渡 り 廊 下	37.97
4	倉 庫	38.00
5	自 転 車 置 場	13.44
合 計		1,702.18

(3) 特別養護老人ホーム菅沢荘

• 土地 30,138.08㎡

所 在		地 番	地 目	地 積	
大 字	小 字			公 簿 ㎡	実 測 ㎡
菅 沢		46	宅 地	30,138.08	30,138.08
合 計				30,138.08	30,138.08

• 建 物 5,123.49㎡

1	菅 沢 荘	4,987.33㎡
2	車 庫	122.59
3	バ イ ク 置 場	13.57
合 計		5,123.49

(4) 養護老人ホームあたご荘

• 土 地 12,779.48㎡ (ただし、360.325㎡を除く)

所 在		地 番	地 目	地 積	
大 字	小 字			公 簿 ㎡	実 測 ㎡
大字岩波	字鬼越	8	宅 地	856.00	966.21
大字岩波	字鬼越	8-1	宅 地	852.89	911.15
大字岩波	字鬼越	575-3	宅 地	188.42	236.72
大字岩波	字鬼越	17	宅 地	1,246.28	1,268.47
小 立	四丁目	5	宅 地	790.08	846.68
大字岩波	字鬼越	29-3	宅 地	168.00	168.00
大字岩波	字鬼越	4-1	宅 地	651.23	712.86
大字岩波	字鬼越	446-1	宅 地	1,018.79	1,205.40
大字岩波	字鬼越	447-1	宅 地	436.38	564.38
大字岩波	字鬼越	7-2	宅 地	610.86	642.13
大字岩波	字鬼越	7-1	宅 地	377.56	423.00
大字岩波	字鬼越	14-2	宅 地	491.00	491.36
大字岩波	字鬼越	18-3	宅 地	1,246.12	1,246.66
大字岩波	字鬼越	29-4	宅 地	186.55	186.55
大字岩波	字鬼越	30-2	宅 地	33.27	33.27
大字岩波	字鬼越	3-1	宅 地	3,728.20	1,617.41
大字岩波	字鬼越	4-2	宅 地	307.43	133.37
大字岩波	字鬼越	14-3	宅 地	11.13	11.13
大字岩波	字鬼越	16-1	宅 地	634.67	586.58
大字岩波	字鬼越	16-2	宅 地	102.13	102.13
大字岩波	字鬼越	16-5	宅 地	26.58	26.58
大字岩波	字鬼越	17-1	宅 地	61.25	61.25
大字岩波	字鬼越	18-6	宅 地	4.53	4.53
大字岩波	字鬼越	18-7	宅 地	6.63	6.63
大字岩波	字鬼越	446-4	宅 地	112.94	112.94
大字岩波	字鬼越	446-5	宅 地	23.55	23.55
大字岩波	字鬼越	3-9	宅 地	141.66	93.81
大字岩波	字鬼越	4-3	宅 地	143.03	96.73
合 計				14,457.16	12,779.48

• 建 物 4,168.15㎡

1	老 人 ホ ー ム	4,130.60㎡
2	休 憩 所	13.25
3	共 同 作 業 所	13.50
4	倉 庫 ・ 物 置	10.80
合 計		4,168.15

(5) 山形市銅町デイサービスセンター

• 土 地 899.4㎡

所 在		地 番	地 目	地 積	
大 字	小 字			公 簿 ㎡	実 測 ㎡
銅 町	二丁目	19-5	宅 地	7,066.51	899.4
合 計				7,066.51	899.4

• 建 物 749.81㎡

1	デ イ サ ー ビ ス セ ン タ ー	749.81㎡
合 計		749.81

3 受託施設等の運営について

I まんさくの丘

平成25年4月の「障害者総合支援法」の施行に続いて、平成25年6月に「障害者差別解消法」の公布、そして平成26年1月には「障害者権利条約」の批准等、国において障がい者に関する新たな施策の進展が見られた。

こうした障がい者福祉を取り巻く大きな変化の中で、それぞれの事業の特性を活かしながら総合福祉施設として社会的な役割を果たせるよう各施設の連携を図りながら運営に努めた。

① 総合施設の優位性を生かす取組み

- まんさくの丘調整会議を毎月2回実施し、それぞれの事業の有機的な連携と調整を図り、効果的な事業の運営に努めた。
- 職員全体で、研修・給食・地域福祉・防災・環境整備・倫理・衛生の7つの委員会を組織して各委員会が諸活動に取り組み、利用者への福祉サービスの向上と施設の運営の活性化を図った。
- 「まんさくの丘保護者会」と連携し、各種行事による地域との交流や施設の環境整備等を実施した。

② 災害防止対策

- 安心かつ安全な施設をめざし、火災や自然災害に備えて、まんさくの丘全体として総合防災訓練を年2回、避難訓練を毎月実施した。
- 施設内の事故を防止するため、毎月、安全点検を行い必要に応じて対策を講じた。
- 通所・通勤途上の事故を防止するため、交通安全指導及び安全対策の充実を図った。
- 行事等による施設内外での事故や災害の発生に備え、損害保険に加入した。
- インフルエンザ等の集団発生に対して、施設間で連携し予防に努めた。

③ 地域社会との交流

- 地域社会との交流を深め、理解と協力を得るため、「地域福祉懇談会」や「まんさくの丘まつり」などを開催し、親しみのある開かれた施設づくりに努めるとともに、町内会が主催する「蔵王地区まつり」に参加し、地域との交流を図った。

(1) 児童発達支援センター こまくさ学園

個別支援計画に基づき、「自分はできるんだ」という気持ちを育みながら、情緒の安定、身辺の自立、運動発達、コミュニケーション手段の獲得、集団生活への意欲などの成長発達を促し、幼児期に必要な基本的なソーシャルスキルを一人ひとりが可能な限り獲得できるように支援に努めた。

さらに保護者に対して利用の「満足度」「意見・要望」等のアンケート調査を年2回実施し、その都度改善を図りながら施設における福祉サービスの質の向上に努めた。

また、地域療育の拠点的な役割を果たすため、相談支援の充実を図りながら、保育所や保健センター等の施設支援や研修事業を実施し、地域支援の充実に努めた。

① 利用児の状況 (平成26年3月31日現在)

定員	平成24年度末 在籍者	年度中の増減			平成25年度末 在籍者
		入所	退所	増減	
30人	33人	11人	10人	1人	34人(男26 女8)

② 年齢構成 (平成26年3月31日現在)

在籍者	0～2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	平均年齢
34人	0人	0人	8人	11人	15人	5.20歳

③ 障がい程度区分 (平成26年3月31日現在)

在籍者	最重度	重度	中度	軽度
34人	0人	7人	24人	3人

④ 通園バスの運行状況 (平成25年3月31日現在)

区分	定員	利用者	乗降地点	走行キロ数(1日平均は平均運行距離)	
				年間	1日平均
2号車	21人補8人	16人	7ヵ所	19,112km	77km

⑤ 療育内容

○療育全般

- 遊びや運動を通して、職員と子どもとの間に信頼関係を築きながら、子どもの心の動きを理解するよう努め、その気持ちを尊重しながら、社会性や言語の獲得、基礎体力づくり、基本的な対人関係の確立など幼児期の発達に必要な療育を行った。

○生活習慣の自立

- 衣服の着脱・食事・排泄など生活習慣の自立に向けての療育を行った。

⑥ 健康衛生管理

- 毎月身体測定(身長・体重)を実施するとともに、嘱託医との連携を図りながら健康管理に努め、各科健診(内科、眼科、耳鼻科、歯科)を年2回実施した。また、歯科衛生士による歯磨き指導やフッ素塗布を実施した。

⑦ 交流保育

- 近隣の幼稚園との積極的な交流保育を通して、互いの心の交流や生活体験の促進に努めた。

⑧ クラス別活動

- 個々のクラスにおいて、毎月の活動計画に基づき少集団での課題活動を行った。

⑨ 行事

- 季節に応じた催しを経験することにより、自然や季節を体感したり、様々な社会体験により、適応力や協調性を養うため、次の行事を実施した。

月	行事内容
4月	入園式、お花見
5月	社会見学(山形県立博物館)、乗馬体験
6月	合宿(1泊2日)
7月	親子さくらんぼ狩り、七夕、バスハイク(マリニピア松島水族館)
8月	夏のつどい

9月	遠足（山寺），まんさくの丘まつり
10月	親子レクリエーション，乗馬体験
11月	給食センター見学・試食，交通安全教室
12月	クリスマス会
1月	だんご木刺し，もちつきお楽しみ会
2月	節分遊び
3月	おひなまつり，卒園式

⑩ 給食

- 給食委員会を毎月実施し，献立内容と食事摂取状況などを把握するとともに，年間計画に基づいて季節感のある給食，変化のある給食の実施に努めた。

⑪ 保護者支援

- 保護者と関わる中で，悩みや問題を少しでも解決していけるよう，日々の療育相談，連絡帳活用のほか，以下の支援を行った。
- 家庭訪問（11件） ・個人面談（各保護者年3回） ・研修会（年4回）
- 保護者茶話会（年6回） ・保護者懇親会（年2回） ・自由参観（年7回）
- 療育参観（各クラス年2回）・療育説明会（年1回）

⑫ 就学・就園

- 保護者の意向や子どもの発達段階に応じて，教育委員会，小学校，特別支援学校，幼稚園などの関係機関と密接に連絡を取りながら適切な指導・支援を行った。

区分	名 称	人数	名 称	人数
就学	楯岡特別支援学校	3名	山形市立南山形小学校	1名
	山形大学附属特別支援学校	2名	山形市立南沼原小学校	1名
	山形市立第一小学校	1名	山形市立金井小学校	2名
	山形市立第八小学校	2名	山形市立桜田小学校	1名
	山形市立楯山小学校	1名	甲府市立池田小学校	1名
就園	東北文教大学付属幼稚園	1名		
			合 計	16名

⑬ 卒園児支援

- 卒園児を対象に，交流・余暇活動の場として「夏のつどい」を実施した。
- 必要に応じて小学校との連絡会を実施した。

⑭ 災害防止

- 非常災害に備え，避難訓練10回，総合防災訓練2回及び職員の救命救急訓練を実施した。また，園内活動や園外行事などの実施にあたっては，無理のない内容・日程に配慮し計画を立て実施した。

⑮ 苦情解決

- 相談，要望などはあったが，苦情として受け付けたものはなかった。

⑯ 職員研修

ア 職場内研修

- 日時 平成25年7月3日（水）15：20～17：00

- 内容 「救命救急法・AED講習」(成人向け)
- 講師 日本赤十字社山形県支部
- 日時 平成25年7月17日(水) 15:20~17:00
- 内容 「救命救急法・AED講習」(子ども向け)
- 講師 日本赤十字社山形県支部
- 日時 平成25年9月25日(水) 15:30~17:00
- 内容 「ソーシャルスキルトレーニングについて」
- 講師 山形県総合療育訓練センター サポートコーチ 山口 幸恵 氏
保育士(兼)発達障がい相談員 小林 里味 氏
- 日時 平成26年3月13日(木) 15:30~16:30
- 内容 「障がいのある人の権利擁護と虐待防止について」
- 講師 サポートセンターおきたま 相談支援専門員 平間みゆき 氏
- 日時 平成26年3月31日(月) 13:30~15:00
- 演題 「やれることから、やってみよう！」(ビデオ研修)
- 講師 山形県総合療育訓練センター 小児科 伊東 愛子 氏

イ 職場外研修

- 山形県自閉症協会「自閉症を正しく理解すること」 8月31日 6名
- 全国知的障害福祉関係職員研究大会新潟大会 9月4日~6日 1名
- 全国児童発達支援協議会施設管理者研修会 2月20日~21日 1名
- その他 13件 31名

⑰ 実習生等の受け入れ

- 保育実習 5名
- 体験実習 2名
- 在宅看護論実習 12名
- キャリア・スタート・ウィーク 2名
- 介護等体験 2名
- 学外演習 24名

⑱ 研修事業

ア 「ナイトセミナー」シリーズ専門講座(年3回)

対象者：保育所，幼稚園，放課後児童クラブ，療育機関，行政機関等の関係者

日 時：第1回 平成25年10月11日(金) 18:30~20:00 講 師：山形県立総合療育訓練センター 小児科 伊東 愛子 氏 テーマ：「やれることから、やってみよう！」 受講者：81名
日 時：第2回 平成25年11月15日(金) 18:30~20:05 講 師：山形県立保健医療大学保健医療学部作業療法学科 森 直樹 氏 テーマ：「感覚とからだの発達をうながす生活の工夫と遊び」 受講者：79名
日 時：第3回 平成25年12月10日(火) 18:30~20:00 講 師：臨床心理士 加藤 玲子 氏 テーマ：「気になる子への支援や対応・親への対応」 受講者：75名

⑱ 相談支援

ア 巡回相談

- 幼児発達相談 年12回
- 子育てランドあ～べ 年5回

イ 外来相談

臨床心理士による行動観察，助言，相談を行った。

- 年23回 延べ51件

ウ その他の相談支援

電話や来所での相談援助のほか，毎月第2・4日曜日に，霞城セントラルの山形市保健センターで相談室を開設。必要に応じて，関係機関との調整，ケース検討を実施した。

(2) 児童発達支援事業 ひよこ教室

発達に心配のある児童を持つ保護者のニーズに応えるため，母子通園での小集団療育のほか，単独での小集団療育コースを定期的実施し，発達段階に応じたきめ細やかな療育を行った。

① 利用状況

- ・ 在籍児 49名 (対前年比+7名)
- ・ 延べ利用者数 1,218名 (対前年比+192名)
- ・ 平均年齢 4.6歳
- ・ 開園日数 271日
- ・ 1日利用平均 4.49人
- ・ 見学 107人

② 療育内容

- ・ 親子遊び，個別療育及び小集団療育を通じて，乳幼児の発達段階に必要な設定遊びや行事を実施した。
- ・ 〈設定療育〉ひよこ体操，ハイハイ運動，はしごくぐり，散歩，ひもとおし，シール貼り，紙遊び，洗濯ばさみ遊び等
- ・ 臨床心理士による外来相談を実施した。
- ・ 保護者への相談支援を必要に応じて随時実施した。

(3) 放課後等デイサービス 風の子

障がいを持つ小学生を対象に，放課後や夏休み等の長期休暇中に療育や余暇の機会を提供し，心身両面のバランスのとれた発達を支援した。

① 利用状況

- ・ 在籍児 47名 (対前年比+9名)
- ・ 延べ利用児数 2,004名 (対前年比+24名)
- ・ 平均年齢 9.6歳

- 開園日数 243日
- 1日利用平均 8.24人

② 療育内容

- 放課後や長期休暇中の療育の場として、幼児期に積み残した社会性、コミュニケーション及び自主性の成長を支援した。
- 〈設定療育〉全身運動（サーキット・バランスボール等）、日常生活訓練、指先運動、クッキング、散歩、宿題等
- 保護者への相談支援を必要に応じて随時実施した。
- 随時学校や関係療育機関との連携を図った。

(4) 保育所発達相談事業

市内保育所等（市立10カ所、民間立32カ所）の保育士を対象に、発達の気になる児童の支援方法の指導や助言を行い、保育所等における処遇の質を高めるとともに、発達に心配のある児童の早期発見・早期療育につなげることを目的として次の事業を行った。

① 相談事業

- 平成25年度巡回相談件数

区 分	箇 所 数	延 巡 回 数	延 対 応 件 数
市立保育所	10	17	59
民間立保育所	26	59	246
合 計	36	76	305

- 平成25年度巡回相談後のフォロー件数

区 分	件 数
相 談 室	20
外 来 相 談	43
合 計	63

- 平成25年度事例検討会

区 分	箇 所 数	延 巡 回 数	延 対 応 件 数
市立保育所	1	1	2
民間立保育所	1	1	3
合 計	2	2	5

② 山形市行政分科会

関係各課（子ども保育課、生活福祉課、健康課、学校教育課）との情報共有並びに巡回相談後のフォロー体制の確認を行った。

- 第1回 平成25年9月6日（金）
- 第2回 平成26年2月12日（水）

(5) 生活介護事業 恵光園

- ・利用者一人ひとりが、主体的に活動できるように、個人の思いを受けとめ、障がい特性や健康状態に十分配慮しながら、安心して様々な生活体験ができる環境づくりと支援サービスの充実に努めた。

① 利用者の状況 (平成26年3月31日現在)

定員	平成24年度末 在籍者	年度中の増減			平成25年度末 在籍者
		入所	退所	増減	
40人	45人	1人	6人	△5人	40人(男20 女20)

② 年齢構成 (平成26年3月31日現在)

在籍者	10代	20代	30代	40代	50代	60代	平均年齢
40人	2人	7人	9人	10人	9人	3人	40歳9ヵ月

③ 障がい程度区分 (新体系障がい程度区分) (平成26年3月31日現在)

在籍者	1	2	3	4	5	6
40人	0人	2人	22人	5人	9人	2人

④ 通園バス運行状況 (平成25年3月31日現在)

区分	定員	利用者	乗降地点	走行キロ数(1日平均は平均運行距離)	
				年間	1日平均
1号車	33人補9人	30人	22ヵ所	23,008km	85km
3号車	8人	7人	7ヵ所	22,782km	84km

⑤ 日常活動

- ・基本的な生活習慣の確立と社会生活に必要な生活技術の習得のため、継続的な活動の援助を行った。

⑥ 班別活動

- ・利用者ごとの障がいの特性及び適性等を考慮し、作業班と生活班の2つのグループに分けて活動した。
- ・活動内容

	項目	人員	主な活動内容
作業班	作業活動 (箱づくり)	27人	・機能訓練を兼ねた紙箱折りの作業を市内の業者から受注して行った。 年間を通して注文があり、作業を進めることができた。 (年間生産数 56,080個)
	創作活動	21人	【陶芸】 ・利用者それぞれの適性に合わせて、ひも作り・型作りなど様々な技法を使い作品を制作し、完成作品は施設の祭り・地元の物産直売店・市内ホテルの催事場等で展示・販売を行った。 ・ガス窯による作品作りに取り組み、釉薬の工夫等による作品作りを行った。 (年間で素焼き6回、本焼き5回を実施)
		20人	【手工芸】 ・利用者の適性に合わせて、きめ細かく対応できるよう様々な手工芸を取り入れた。 ・ビーズで指輪、ブレスレット、ネックレス等の製作に取り組み、施設の祭り・地元の物産直売店・市内ホテルの催事場等で展示した。

作 業 班	創作活動		<p>【図画工作】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・季節や行事に合わせて絵描きや紙工作等を行い、自由に創作する楽しさを体感した。
	生活学習レクリエーション	27人	<p>【クッキング】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・季節感のあるお菓子作りを通して、食べ物を作る楽しさを体験した。 (4回) <p>【月・季節行事】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・誕生会や茶話会、季節の小行事等の実施により、変化のある生活作りに取り組んだ。 (誕生会10回、季節行事7回) ・散歩や踊り等、楽しく体を動かせる場面を多く取り入れた。 <p>【園外活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設のバスを利用する等、グループで外出し、見聞を広げ体験を積み、生活の幅を広げた。 (作業班3回、合同4回) <p>【園芸】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・園の畑にサツマイモやカボチャ等を植えて、植物の成長や収穫の喜びを体験した。 <p>【軽スポーツ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域のインディアカ愛好会の指導を受け、スポーツの楽しさを体験しながら交流を図った。 (8回) ・冬季間、しゃんしゃん体操(介護予防)を取り入れ、運動不足の解消に努めた。
生 活 班	個別活動	18人	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者一人ひとりの障がいの状態と嗜好や適性に合わせ、楽しく取り組める軽作業や指先を使うビーズ通しやパズル作り等の活動を行った。 ・施設周辺の散歩等により、体力作りや健康増進に努めた。
	リハビリ体操	18人	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽、レクリエーション、運動等を組み合わせて、楽しみながら体を動かし身体機能の活性化を図った。
	機能訓練	5人	<ul style="list-style-type: none"> ・身体機能の維持・向上を図るため、個人ごとに必要な機能訓練を行った。
	創作活動	18人	<p>【陶芸】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者の適性に合わせ、型作り等の技法を用いて作品を作り、完成作品は施設の祭り・地元の物産直売店・市内ホテルの催事場等で展示・販売を行った。 <p>【手工芸】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パーラービーズでコースター等の作品を作り、施設の祭り・地元の物産直売店・市内ホテルの催事場で展示・販売を行い、一般市民との交流と理解を深めた。
	生活学習レクリエーション	18人	<p>【月・季節行事】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・誕生会や茶話会、季節の小行事等の実施により、変化のある生活作りに取り組んだ。 (誕生会10回、季節行事7回) ・園の畑にサツマイモやカボチャ等を植えて、植物の成長や収穫の喜びを体験した。 <p>【園外活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設のバスを利用して外出する小行事を行い、一般の人とふれあいながら季節を肌で感じる等の豊かな経験を積んだ。 <p>【クッキング】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・季節感のあるお菓子作りを通して、食べ物を作る楽しさを体験した。 (3回) <p>【軽スポーツ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・希望者は、毎月1回、地域のインディアカ愛好会の指導を受け、スポーツの楽しさを体験しながら交流を図った。 <p>【レクリエーション】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・室内でできる簡単なボウリングやサッカー等のゲームを行い、楽しく身体を動かした。

- ⑦ 自立訓練活動
- 利用者全員で、東根市内にある身体障害者保養所に1泊する宿泊訓練を行い、親元を離れて生活する体験を通して自立心を高めた。
- ⑧ 園外活動
- 施設全体の行事として岩手方面への親子宿泊旅行を行い、利用者と保護者の親睦を図りながら相互理解を深めた。
- ⑨ 健康衛生管理
- 嘱託医との連携を図りながら、利用者の健康管理に努めるとともに、各科健診（内科，眼科，耳鼻科，歯科）を年2回実施した。
 - 利用者全員を対象に、施設内で山形市の総合健診（特定健診・がん検診等）と同様の集団健診を実施した。
 - 定期的に体重測定を行い、利用者の健康状態の把握に努めた。
 - 利用者及び関係職員の検便を実施し、健康状態の把握に努めた。
- ⑩ 給食の状況
- 利用者に好まれる内容と栄養のバランスの両立に努め、季節感のある献立等、豊かな食事の提供に努めた。
 - 給食委員会を毎月1回実施し、献立内容と利用者の食事摂取状況等を確認することで提供内容の充実を図った。
 - 毎日の食事の中で、偏食及び糖尿病等の成人病予防を図るため個別支援を行い、必要に応じて家庭との連携を図り、効果を高める食事支援に取り組んだ。
- ⑪ 時間外預かり支援（レスパイト）サービスの実施
- 利用者及びその家族に対する支援として、通常の営業時間を延長して支援を行った。

午前の預かり時間	(8:00～8:30)	延べ利用者数	251人
平日・午後の預かり時間	(17:15～18:30)	延べ利用者数	350人
土曜・午後の預かり時間	(12:30～18:30)	延べ利用者数	72人
- ⑫ 防災及び事故防止対策
- 年2回の総合防災訓練及び火災や地震を想定した毎月1回の避難訓練を実施し、災害時に備えた。
 - 訓練の実施にあたっては、内容・日程で安全性に配慮した計画を立て実施した。
 - 登降園時の安全に配慮し、家庭と連携を密にしながら事故の防止に努めた。
- ⑬ 苦情解決
- 連絡帳や電話等で保護者及び家庭との連携を密にして、丁寧な対応を心がけたところ、年間を通して苦情は寄せられなかった。
- ⑭ 職員の研修
- 職員の資質向上を図るため、以下の研修に参加した。
- ア 職場内研修
- 救命救急法研修 7月3日，17日 7名
 - 権利擁護研修（障害者虐待防止法関係） 3月13日 9名

イ 職場外研修

- 村山特別支援学校公開研修会 7月30日 1名
- 相談支援従事者研修（初任者研修） 8月1日～2日 1名
- 日中活動支援施設長研修会 8月28日～29日 1名
- 社会福祉施設新任職員研修会 10月23日 1名
- サービス管理責任者研修会（生活介護） 11月21日，12月3日～4日 1名
- 倫理委員会研修会 2月21日 1名
- 県福祉協会施設長研修会 2月24日 1名
- 村山地区権利擁護セミナー 2月28日 1名

⑮ 地域社会との交流

- まんさくの丘まつり開催（9月）
- 蔵王地区まつりへの参加（11月）
- 山形市内のホテルでの展示販売（12月）
- 地域内の農産物直売店での利用者作品の展示及び販売（通年）
- 地域協力者より栽培指導等の協力を得て農作物を栽培（通年）

⑯ 保護者との連携

- 毎日の連絡帳交換により相互の状況把握と理解を深めるとともに，必要に応じて家庭訪問及び電話等により保護者との連携を密にしながら，施設と家庭が一体となって継続性のある支援ができるように努めた。

⑰ 実習生の受け入れ

- 保育実習生（短大生） 2人
- 施設実習（看護学生） 12人
- 就業・現場体験（特別支援学校生徒） 4人

(6) 日中短期入所事業所 恵光園

在宅で暮らす障がい者を，日中の一定時間お預りすることにより，利用者及び家族の負担軽減を図り生活を支援した。

① 月別実施状況

(平成26年3月31日現在)

区 分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
実施人数 (延べ人数)	29	29	31	23	27	20	23	22	20	23	22	22	291人

② 時間別実施状況

(平成26年3月31日現在)

区 分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
4時間未満	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1人
4～8時間	27	25	23	18	16	14	15	18	16	21	20	22	235人
8時間以上	2	4	8	5	10	6	8	4	4	2	2	0	55人

(7) 宿泊型自立訓練事業 蔵王通勤寮

利用者の就労・生活の安定と地域生活移行を推進するため、個別支援計画に基づき、事業所、関係機関等と連携して支援を行った。

① 利用者の状況 (平成26年3月31日現在)

定員	平成24年度末 在籍者	年度中の増減			平成25年度末 在籍者
		入所	退所	増減	
20人	21人	0人	1人	△1人	20人(男15 女5)

② 年齢構成 (平成26年3月31日現在)

年齢	10代	20代	30代	40代	50代	60代	平均年齢
人数	0人	5人	4人	5人	6人	0人	40.05歳

③ 利用者の日中活動区分 (平成26年3月31日現在)

活動区分	一般就労	就労継続支援A型	就労継続支援B型	就労移行支援	生活介護事業所	無職	合計
人数	13人	1人	4人	0人	1人	1人	20人

④ 自立能力向上への援助

- ・ 基本的生活習慣と身辺処理能力の向上を図るための支援に努めた。
- ・ 金銭に関する自己管理能力の向上を図る支援を行った。
- ・ 利用者の自治会活動の充実を図るための支援（年間計画，生活用品購入，当番活動等）を行った。
- ・ 相談支援事業所との契約の支援を行った。

⑤ 就業指導及び職場定着への支援

- ・ 事業所との連携を強化し，職場定着を図るための訪問等を行った。

⑥ 食生活への支援

- ・ 給食委員会を毎月1回実施し，献立内容と利用者の食事摂取状況等を把握するとともに，年間計画に基づき季節感のある給食の提供を行った。
- ・ 利用者の嗜好調査（アンケート等）を毎月行い，その希望を集約して実際の献立に反映させた。
- ・ 定期的に栄養士が食事の実態を確認し，必要に応じて利用者に食事指導及び助言を行った。
- ・ 食生活及び調理に関する知識と技能を高める支援を行った。

⑦ 余暇活動への支援

生活の質的な向上を図るために次の行事を通して支援を行った。

- ・ 誕生会（毎月）
- ・ 花見会（4月）
- ・ 東京への一泊の社会見学旅行（11月）
- ・ 忘年会（12月）
- ・ ボウリング大会（12月）

⑧ 健康及び衛生管理

・健康診断等の実施状況

検診内容	健康診断（一般）	健康診断（成人病）	子宮・乳がん検診
受診者数	11人	9人	1人

- ・健康診断実施の結果，精密検査や治療を要するケースについては，迅速に対処した。異常が認められた利用者に関しては再検査を行った。
- ・毎月1回の体重測定及び血圧測定を実施し，健康状態の把握に努めた。
- ・感染症や食中毒の予防のため，利用者及び関係職員の検便を実施した。（1人当たり年間6回）
- ・塩素系の空間除菌剤及び手指消毒薬を導入し感染症の拡大防止に努めた。
- ・うがい，手洗い等の徹底を呼びかけ，インフルエンザ，感染症の予防に努めた。
- ・病気等の予防，治療及び医療機関への受診等自己管理能力の向上を図るための支援に努めた。

・通院・入院の状況

（平成26年3月31日現在）

受診内容による分類	内科	精神科	てんかん	脳神経外科	脳外科	歯科	皮膚科	眼科	耳鼻科	形成外科	整形外科	婦人科	泌尿器科
通院治療	132 (16)	96 (6)	8 (2)	16 (2)	0 (0)	97 (10)	31 (7)	13 (7)	3 (2)	14 (1)	51 (3)	9 (2)	0 (0)
入院治療	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	37 (1)	0 (0)	0 (0)

※（ ）内は実人数

⑨ 災害防止対策

- ・避難訓練を実施した。（4回／4月，6月，8月，11月）
- ・総合防災訓練を実施した。（2回／9月，2月）
- ・防災研修を実施した。（1回／9月）
- ・まんさくの丘全体で実施する避難訓練に参加した。（毎月1回）
- ・発電機の操作及び作動確認を行った。（毎月1回）
- ・避難訓練の実施等により防災意識及び知識，消火器使用の技能を高めるための支援を行った。

⑩ 関係機関・保護者との連携

- ・福祉事務所とのケース検討会
- ・就業・生活支援センターとの連携
- ・相談支援事業所との連携
- ・保護者会の開催（2回／4月，12月）
- ・保護者との個人面談……必要に応じて随時行った。

⑪ 苦情解決

- ・今年度は苦情は無かった。
- ・利用者にアンケート調査を実施した。（2回／9月，2月）

⑫ 職員の研修

職員の資質向上を図るため、下記の研修に参加した。

ア 職場内研修

- 救命救急研修 (7月 / 3名参加)
- 虐待防止研修 (3月 / 1名参加)

イ 職場外研修

- 関東地区宿泊型自立訓練事業等施設長研修 (4月 / 1名参加)
- 東北地区施設長・管理者等連絡協議会福島大会 (6月 / 1名参加)
- 宿泊型自立訓練事業等職員研修会 (8月 / 1名参加)
- 全国宿泊型自立訓練等職員研究会 (11月 / 1名参加)
- 関東地区知的障害者福祉協会宿泊型自立訓練事業等協議会職員研修 (12月 / 1名参加)
- 矯正施設退所者支援のための福祉関係等職員研修会 (12月 / 1名参加)
- 地域支援セミナー (1月 / 1名参加)

(8) 共同生活援助事業所 蔵王（グループホーム）

個別支援計画に基づき、金銭管理、居室の清掃等の生活環境の改善に関すること、事業所と連携した職場定着を図るための支援等を実施した。

一部の入居者が高齢化しており、それに伴い健康状態に問題を抱えるケースが増えてきているため、保護者、世話人との連携を密にし、個別援助を行うとともに、グループホーム退居後を見据えたその後の生活場所についても保護者、関係機関との話し合いの場を設けた。

① 入居者の状況 (平成26年3月31日現在)

グループホーム名	飯田荘	みどり荘	さくら荘	わかば荘	あすなる荘	わかくさ	合計
入居人数	4人	4人	4人	4人	4人	4人	24人

② 年齢構成 (平成26年3月31日現在)

年齢	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	平均年齢
人数	0人	1人	8人	6人	5人	3人	1人	46.83歳

③ 入居者の就労区分 (平成26年3月31日現在)

就労形態	一般就労	就労継続支援A型	就労継続支援B型	生活介護事業所	無職	合計
人数	10人	6人	5人	1人	2人	24人

④ 入居者に対する支援（延件数）

- 社会生活上の相談及び支援（403回）
- 余暇活動の支援（91回）
- 職場訪問及び就労支援（132回）
- 関係機関との連携（22回）
- 対人関係の調整（45回）

- 買物等の支援（70回）
- 問題行動への対応（39回）
- ⑤ 世話人に対する指導
 - 相談及び業務指導（193回）
- ⑥ 健康及び衛生管理
 - 健康管理に関する支援（167回）
 - 医療機関への受診支援（128回）
 - 入居者の健康診断実施状況

検診内容	健康診断（一般）	健康診断（成人病）	子宮・乳がん検診
受診者数	10人	14人	3人

- ⑦ 地域生活関連
 - 地域生活への適応に関する支援（10回）
- ⑧ 災害防止対策
 - 蔵王通勤寮で実施した総合防災訓練に参加した。（2回／9月，2月）
 - グループホームごとに防災設備の説明及び避難経路の確認を行った。
- ⑨ 家族（保護者）との連携
 - 保護者会の開催（2回／4月，12月）
- ⑩ 苦情解決
 - 今年度は苦情は無かった。

(9) 相談支援事業所 まんさく

地域で生活する障がい者が、その人らしく生活するために、希望する必要な福祉サービスを利用できるよう個人ごとの相談に応じ、計画相談支援をはじめ、市町村や他の相談支援事業所等の関係機関と連携を図りながら様々な支援を行った。

① 相談件数（形態別）

形態区分	平日	時間外	休日	合計
電話	154	0	0	154件
来所	31	0	0	31件
訪問	46	0	0	46件
その他	0	0	0	0件
合計	231件	0件	0件	231件

② 相談者

区分	件数	区分	件数
本人・家族等	200	行政機関	2
民生委員	0	教育委員会	1
ケアマネージャー	1	山形市からの依頼	14
サービス提供事業所	12	その他（知人等）	2
医療機関	0	合計	232件

③ 主な相談内容

内 容	件 数	内 容	件 数	内 容	件 数
サービス利用支援	462	保育・教育支援	142	雇用・就労支援	20
障がい・病状理解支援	194	家族・人間関係支援	36	社会参加・余暇活動支援	20
健康・医療支援	131	家計・経済支援	61	権利擁護・成年後見関係	8
不安解消・情緒支援	195	生活に関する支援	111	虐待に関する支援	8
そ の 他	0			合 計	1,388件

④ 相談後の連絡調整

区 分	件 数	区 分	件 数
本人・家族等	1,295	医療機関	53
民生委員・近隣関係	2	行政機関	580
ケアマネジャー	126	その他	27
サービス提供事業所	1,033	合 計	3,116件

⑤ 申請手続き

内 容	申請・処理件数
介護給付費支給申請	106
訓練等給付費支給申請	13
地域生活支援事業申請	9
手帳申請関係	13
自立支援医療申請	0
障がい児通所給付費支給申請	214
サービス等利用計画申請（者）	93
障がい児支援利用計画申請（児）	198
福祉タクシー券・給油券	42
その他	0
合 計	688件

⑥ 障がい種別

身体障がい	知的障がい	精神障がい	発達障がい	合 計
39	79	2	111	231人

⑦ カンファレンス等の開催件数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2	2	4	6	5	2	3	4	5	4	6	5	48件

II 児童養護施設 山形学園

平成25年度は、子ども達への支援の充実のために、以下の5点を重点的に取り組んできた。

- (1) ユニットケア体制の充実
- (2) 一人ひとりの心身の発達を支援する処遇の推進，個別ケアの充実
- (3) 家庭や関係機関と連携し，早期家庭復帰にむけての相談・助言及び家庭支援
- (4) 職員の専門性に対する意識改革と資質向上，チームケア体制構築
- (5) 子育て短期支援事業の推進，地域交流の推進

一人ひとりの生活をより豊かなものにしながら，子ども達一人ひとりと向き合い、子ども達の人間力を育むことで，自立への力の源となり，施設生活への活力となるよう支援に努めた。

① 入退所の状況 (平成26年3月31日現在)

定員	平成24年度末 在籍者	年度中の増減			平成25年度末 在籍者
		入所	退所	増減	
40人	37人	5人	5人	0人	37人(男23 女14)

② 年齢構成 (平成26年3月31日現在)

3歳未満	年少児	小学生	中学生	高校生	その他	計	平均年齢
0人	3人	17人	10人	7人	0人	37人	11.89歳

③ 障がい等区分 (平成26年3月31日現在)

知的障がい児	ADHD (注意欠陥/多動性障がい)	広汎性発達障がい
12人	4人	3人

④ 入所理由区分 (平成26年3月31日現在)

虐待	30人	その他	5人
父母の精神疾患等	0人		
破産等の経済的理由	2人	計	37人

⑤ 退所児童状況 (平成25年度中)

県内就職	2人	県外進学	0人	家庭復帰	3人	施設利用	0人	措置変更	0人
------	----	------	----	------	----	------	----	------	----

⑥ 児童処遇

ア 年少児

- 基本的生活習慣の確立及び遊びを通して心身両面の育成に努めた。
- 幼稚園を活用しながら，集団生活への適応力の向上に努めた。
- 幼稚園入園前の幼児は，地域の公民館の子育てサロンや幼稚園の遊びの教室に参加し，地域との交流及び集団参加の体験を増やした。

イ 小学生

- 基本的生活習慣の習得に努めた。
- 余暇活動や遊びを通して，情緒の安定を図り心身両面の育成に努めた。
- 学校との日常の相互連絡や連絡会（年2回）等を通して，生活と学習の向上に努めた。

- ・居室単位の活動やグループ活動を通して、協調性や自主性の高揚に努めた。

ウ 中学生・高校生

- ・部活動と学業の両立が図れるように指導に努めた。
- ・進路指導に当たっては、進路目標、意識の高揚を図りながら、学校及び関係者との連携に努めた。
- ・基本的な生活習慣の習得を図り、社会性・協調性及び自立意欲の向上に努めた。
- ・スポーツ活動等を通して、情緒の安定を図り心身両面の育成に努めた。
- ・高校卒業後の進路については、自立サポート相談員を中心に学校や関係者等と連携を図りながら十分な情報提供を行い、本人の意思を尊重しながら進めた。

エ 全児童

- ・個々の児童の意見が尊重される環境作りとその対応の充実に努めた。
- ・調理実習やおやつ作りを定期的実施し、生活技術の習得と変化のある生活作りに努めた。
- ・社会体験学習や園外活動の機会を多く設け、社会経験や常識の習得向上に努めた。
- ・学習ボランティア等の協力を得ながら個別学習の充実や学習意欲の向上に努めた。
- ・児童相談所や関係機関との連携を図り、処遇の向上に努めた。

⑦ 健康衛生管理

ア 健康診断を年2回実施した。

イ 毎日の健康観察により、疾病の早期発見と早期治療に努めた。

ウ 児童の検便を年3回実施し、感染症の予防に努めた。

エ 医療状況

区 分	内科	外科	皮膚科	歯科	整形外科	耳鼻科	眼科	泌尿器科	精神科	計
服薬(実人数)	113	2	55	22	16	7	25	0	23	263人
通院(延人数)	158	6	90	35	36	7	27	0	31	390人
入院(延人数)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0人
計	271	8	145	57	52	14	52	0	54	653人

⑧ 給食の状況

ア 年齢に適した栄養の供給に努めた。

イ 毎月1回給食委員会を開き、適切な食事内容の検討や食生活への興味や関心の普及に努めた。

ウ 衛生的な食事環境作りに配慮し、正しい食習慣の確立に努めた。

エ 行事食、郷土食、バイキング、会食、外食、希望献立などを実施し、楽しく変化に富んだ食生活に努めた。

オ 週1回手作りおやつを実施し、手作りの良さを児童に伝えることに努めた。

カ 毎月1回ユニット調理を実施し、生活技術の向上に努めた。

⑨ 行 事

生活の潤いと集団生活への適応や協調性の向上を図るために次の行事を実施した。

- 全体行事 職員歓迎会, グループ旅行, 海水浴(宿泊), ふれあいまつり, クリスマス会, 市長とのもちつき会, スキー教室, 退園生激励会, 職員送別会
- 季節行事 端午の節句, 七夕, だんご木刺し, 雛祭り
- 園外行事 県内児童養護施設入所児童ワイワイ交流会

⑩ 地域活動と社会資源の活用

ア 地域交流を深め, 児童の自主性や社会適応力を高めるため次の活動を実施した。

- 山形市10kmウォーキングへの参加
- 上野地区流しそうめんまつりへの参加
- P T Aや子供育成会行事への積極的参加
- ボランティア活動(菅沢荘, あたご荘, 夏祭り手伝い)

イ ボランティアや慰問等の受け入れ

• 行事の手伝い	8団体3個人	年間延べ回数	1回
• 施設内外環境整備	3団体	〃	4回
• 慰問	4団体11個人	〃	10回
• 招待	6団体1個人	〃	11回
• 学習, 絵本, 散髪等	2団体14個人	〃	310回

ウ 実習生の受け入れ

- 資格取得のための実習 4年大学4名, 短期大学16名, 専門学校4名
- 介護体験実習 4年大学8名

⑪ 家族との関係作り・調整

ア 家庭へのファミリー・ケースワークを行い, 早期家庭復帰の調整に努めた。

イ 家族も一緒に参加できる行事等には参加を呼びかけ, 家族との関係作りに努めた。

ウ 夏休みや冬休みなどに, 家庭への一時帰省を実施した。

エ 家族等との交流のない児童には, 家庭生活体験事業を実施した。(3家庭に4名の児童, 延べ27日)

オ 家庭訪問(8家庭 8回実施)

⑫ 職員会議・委員会等

運営会議14回, 職員会議12回, 給食委員会12回, ケース検討会12回, ケースカンファレンス8回, 心理療法士・職員に対する専門医の助言等(心理療法スーパービジョン)10回

⑬ 職員の研修

ア 内部研修会

- 平成25年9月10日 児童相談所とのケース検討会
- 平成25年12月2日及び平成26年2月28日「CAPおとなワークショップ」
CAP庄内 齊藤 綾 氏
- 平成26年3月24日「いのちの学習」
MOTHER design わだゆきこ 氏
- その他 4件

イ 外部研修会

• 東北ブロック児童養護施設研究協議会（仙台市）	6月26日～27日	2名
• 東北ブロック児童養護施設初任者研修会	9月17日～18日	3名
• 山形県児童養護施設協議会宿泊研修会	11月14日～15日	5名
• ファミリーソーシャルワーカー研修会	2月26日～27日	1名
• その他 16件		34名

⑭ 災害防止

- ア 防災計画に基づき，消火訓練，避難訓練を定期的を実施した。
- イ 自転車の安全点検を行った。
- ウ 登下校や外出時の事故防止のため，交通安全教育を実施した。
- エ 夜間召集訓練を実施した。

⑮ 心理療法の実施

- ア 実施児童数 28名
- イ 心理療法等の回数
 - 心理療法 753回
 - セカンドステップ 68回
 - サードステップ 20回 合計841回

ウ 対象児童の年齢・主訴別数

	身体的虐待	保護の怠慢・拒否	心理的虐待	その他	計
3歳～学齢前	0	0	0	0	0人
小学生	3	7	2	2	14人
中学生	1	6	0	1	8人
高校生	0	4	0	2	6人
計	4	17	2	5	28人

⑯ 苦情解決の状況

- 要望や意見はあったが，その都度話し合いで解決することができた。

こどもショートステイ事業

家庭をとりまく環境が複雑化している今日において，子育て支援事業の一環として，平成9年4月より山形市から委託を受け，平成25年度については，1名7日間の利用実績があった。

自立サポート相談事業

平成22年4月より山形県から委託を受け，自立サポート相談員を中心に退所児童に対する相談支援活動及び入所児童の就職活動，自立に向けての支援活動を行った。

- 年間相談件数 109件

Ⅲ 高齢者総合福祉施設すげさわ

理念である「入所者・利用者，誰もが安心できる暮らしの実現」に向けて業務にあたった。
経営的には、「すげさわ」の各事業所が介護報酬による経営の維持に努めた。

- ① 介護保険制度に対応し，次の事項に取り組んだ。
 - 介護報酬による経営の維持
 - 給付管理と介護報酬事務の正確化
 - 利用者の確保
 - サービスの質の向上
 - ケアプラン・リハプラン・栄養マネジメントの適正度と実施度の向上
 - 地域支援機能の強化
- ② 地域交流を図るため，地域の方々の協力を頂き，次の事業を実施した。
 - 夏祭り 7月28日（日）……地元自治会・家族会との共催
 - 敬老会 9月15日（日）
- ③ 地域貢献として次の活動を実施した。
 - 団地内市道のごみ拾い
 - 市有地の除草
 - 資源回収への協力
- ④ 地域との連携を図るため，次の地区会議等への出席を行った。
 - 地区会議への参加……本沢地区内企業・施設関係者と地区民の懇談会，文化祭，市長との新春懇談会，地域包括支援センター関係会議多数
 - 地区内学校入学式，卒業式への参加……本沢小学校，第九中学校，山形医療技術専門学校
- ⑤ 地区自治会，近隣施設との連携
 - 防災協力を図るため，防災訓練を実施するとともに防災懇談会を開催した。
 - 本沢地区との福祉施設との災害時相互応援協定に基づき連絡会議を開催した。
- ⑥ 「すげさわ経営会議」の開催……総合福祉施設として，有機的な連携を図るため各部所幹部職員の同会議を月1回開催した。

職員の研修……サービス及び職員の資質の向上を図った。

 - 県研修センター 4回 4人
 - その他県内外の外部研修 23回 29人

⑦ 内部研修の状況

月日	テ	マ	講	師
4/11	事業計画	方針の周知	各部所担当職員	
5/30	心肺蘇生・AEDの使用について	吐物処理・手洗いの実践	元山形市消防次長 安全衛生委員会	深瀬 董 氏
6/27	社会人としてモラルについて	グループワーク 食中毒について	研修委員会 管理栄養士	田中真理子
7/25	虐待について	ビデオ学習	リスク委員会	
8/29	スーパートランスファーについて		リハビリ委員会	
9/26	腰痛予防について		健康運動指導士	辻原 吉子 氏
10/31	認知症について	DVD 学習	研修委員会	
11/28	医療に関する研修（感染症について）	総合防災訓練報告・防災クイズ	主任看護師 防災委員会	太田ゆり子
12/19	事故防止・身体拘束について	ヒヤリハット集計 吐物処理の実践	リスク委員会 安全衛生委員会	
1/30	看取りに関する研修		東北文教大学短期学部人間福祉 学科教授	近岡 綾子 氏
3/20	研究発表 財務報告		各部所担当職員 事務	伊藤 壮一・太田安希子

⑧ 各種委員会

- 安全衛生委員会は、職員の健康診断、職員の健康障害防止（インフルエンザワクチン接種・感染症予防対策、メタボリックシンドロームに着目した特定健診及び特定保健指導）、感染症マニュアルの見直し、産業医との連携、水道水残留塩素測定等を実施した。
- 防災委員会は、各種想定防災訓練、防災マニュアルの見直し、機器取扱マニュアル、自主点検、緊急連絡網の作成、地域や近隣施設との防災訓練や防災懇談会を実施した。
- 広報委員会は、すげさわ通信（機関紙）・家族会だより・夏祭りチラシポスター、施設のパンフレット作りを行った。
- リスクマネジメント委員会は、ヒヤリハット報告書などを通して、事故の分析・リスクの回避・安全な環境の提供・介護事故防止に努めた。骨粗鬆症により、いかに丁寧な介護・優しい移乗介助をするかの徹底を図った。
- 研修委員会は、やらなければならない研修や時代が求めている研修を実施した。また、全体会で講師を招へいた場合は、アンケートを実施し今後の運営に生かした。
- 食事の委員会は、選択食の希望調査・おやつ在庫管理・行事食の企画運営・ソフト食の導入検討・食事についての提案等を行った。
- リハビリ検討委員会は、介助補助具の導入、スーパートランスファー（移乗介助の方法のひとつ）への取り組み・同研修会の開催、生活環境及びその動線作りに取り組んだ。
- レクリエーション委員会は、レクリエーションの企画実施・その実施援助等を行い、楽しく参加できる活動の提供を心がけた。

- ・褥瘡（床ずれ）委員会は、褥瘡の予防、褥瘡のある方の対応に力を入れた。褥瘡の段階を判断するスケールも導入し、それに基づき対応することで成果を上げることができた。
- ・痰吸引委員会は、痰吸引研修を修了した介護職員が、看護職員との連携・協働のもとに痰吸引や経管栄養（医療的ケア）の取り扱いを迅速かつ安全に実施できるように取り組みを行った。また、厚生労働省より都道府県が実施する標準研修に4名の介護職員が参加し研修過程を修了した。

(1) 特別養護老人ホーム菅沢荘（介護老人福祉施設）

事故及び各種感染症の防止に努めた。事故報告書を要する事故は16件で保険対応事故は1件であった。2月末から3月上旬にかけてノロウイルスが入所者・職員に発生した。インフルエンザは、職員1名がり患した。ベッドの稼働率は、目標の95%を上回り97.5%であった。いきいき弁当配食事業や自主事業のいきいきサロンは、例年どおり実施した。平成25年12月より山形市からの委託事業として、高齢者世話付住宅（市営南山形在宅）生活援助員派遣事業を受託した。菅沢荘から南山形市営アパートG棟10戸に生活援助員を派遣し、入居者の在宅生活を支援した。

① 入所者の概況

- ・入所者数の経過 (平成26年3月31日現在)

定員	平成24年度末 在籍者	年度中の移動			平成25年度末 在籍者
		入所	退所	増減	
80人	80人	13人	13人	0人	80人(男18,女62名) ※うち旧措置者4名

- ・年齢構成 (平成26年3月31日現在)
- ・要介護度 (平成26年3月31日現在)

60歳代	4人
70歳～75歳	4人
76歳～80歳	11人
81歳～85歳	19人
86歳～90歳	16人
91歳～95歳	20人
96歳以上	6人
計	80人
平均年齢	85.4歳

要介護1	2人
要介護2	10人
要介護3	17人
要介護4	29人
要介護5	22人
計	80人
平均要介護度	3.7

- ・介護状況 (平成26年3月31日現在)

区分	歩行			食事			排泄			入浴			着脱衣			認知症	おむつ	車椅子	寝たきり	知的障がい	精神障がい
	自立	半介助	全介助	自立	半介助	全介助	自立	半介助	全介助	自立	半介助	全介助	自立	半介助	全介助						
人数	5	6	69	30	17	33	6	17	57	1	9	70	5	9	66	74	76	70	11	4	25

② 身体拘束ゼロへの取り組み

- ・拘束は行っていない。

- ③ ケアプランに基づくサービスの提供
- ケアプランの精度を高め、かつ実施度を上げることに努めた。
 - ケアカンファレンスを随時開催し、迅速なケアプランの見直しを行った。
 - 定期的なモニタリングを実施した。
- ④ ユニットケアの実施
- 内容の充実を図った。
- ⑤ 個別的ケアの実施
- 個別的な関わりを入所者に対して適時実施した。
 - 個別的ケアでは、次の内容を実施した。
手浴、足浴、散歩、リハビリ、整容等
- ⑥ 入所者の安全と健康の確保
- 安全衛生委員会を中心に、疥癬、MRSA、レジオネラ菌、ノロウイルス、インフルエンザ等の感染予防に努めた。
 - 安定した健康状態の保持と早目の処置対応に努めた。
 - 健康診断の実施（6月、2月）
 - インフルエンザ予防接種を入所者及び職員が接種することにより、流行を防止できた。
 - 嘱託医と協力病院との懇談会を通して連携に努めた。
 - 健康管理状況 (平成26年3月31日現在)

区 分	内 科	精神科	皮膚科	歯 科	整形外科	耳鼻科	眼 科	泌尿器科	婦人科	外 科	その他	計
服薬(実人数)	80	15	23	0	11	0	0	2	0	0	0	131人
通院(延人数)	29	0	5	11	9	7	6	17	0	41	19	144人
入院(延人数)	20	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	20人
計	129	15	28	11	20	7	6	19	0	41	19	295人

- ⑦ 栄養管理
- 適切な栄養マネジメントを実施した。売店や生菓子販売をとおして潤いを提供した。調理活動（月1回）をとおして、作る楽しみ・それを食べる楽しみを提供した。
- 行事食（選択食64回、季節に合わせた節句料理やお祝い膳12回、鍋2回、鰻の蒲焼き実演昼食会1回、ところ天の会1回、計80回）
 - 飲酒の日の開催 毎週木曜日
 - 入所者が希望する食事の提供……10食
 - (協)山形給食センターと連携し、ソフト食の導入を実施し提供した。
 - 他職種との協働による栄養ケアマネジメントを実施し、個人別の栄養管理を行った。

・食事形態 (平成26年3月31日現在)

主食	ごはん	軟ごはん	全粥	ミキサー粥	ソフト粥	パン	計
人数	13人	11人	31人	4人	3人	1人	63人
副食	常食	キザミ食	極キザミ食	ミキサー食	計	うちソフト食併用者	
人数	21人	20人	16人	6人	63人	19人	
流動食	高栄養ゼリー	経管栄養	計				
人数	5人	12人	17人				

- ⑧ 生活の潤いと楽しさを演出するために、次の事業を実施した。
- ・全体行事 外食・ショッピング, 夏祭り, 敬老会, 芋煮会, 大掃除
 - ・季節行事 花見, 節句, 七夕, 花火大会, 紅葉狩り, クリスマス会, 正月, もちつき, 節分, 季節毎のコンサート
 - ・活動 音楽療法 (毎月2回), 朝の体操, お茶会, 風船バレー, 調理活動, 創作活動, お花の会, 書道, 絵画等
 - ・レクリエーションワーカーによる各種レクリエーションの実施
- ⑨ 処遇の安定と向上につながる次の会議と委員会を実施した。
- ・すげさわ経営会議 12回
 - ・カンファレンス 207回
 - ・職員全体会議 11回
 - ・ユニット職員会議 12回
 - ・各種委員会の開催 120回
- ⑩ 緊急性・透明性・公平性に留意し、入所決定会議を開催した。
- ・退所者が発生する前に次の候補者を選出するために年4回開催
- ⑪ 災害訓練
- ・総合防災訓練 (地震避難訓練) 2回
 - ・防災機器取り扱い講習 1回
 - ・防災設備自主点検 12回
 - ・部分訓練 4回
 - ・夜間想定避難訓練 1回
 - ・通報召集訓練 1回
- ⑫ 実習生等の受け入れ
- ・施設実習 27人
 - ・介護初任者研修 29人
 - ・介護等体験 2人
- 計 58人
- ⑬ ボランティア活動
- ・定期的活動 6団体 2個人 年間延べ活動人数228人
 - ・不定期的活動 1団体 2個人 年間延べ活動人数 22人 計250人
- ⑭ 苦情解決
苦情件数は0件であった。
- ⑮ 家族会との連携
- ・夏祭りや敬老会の共催
 - ・面会の促進
 - ・奉仕活動
 - ・家族会・職員との懇親会
 - ・アンケート調査の実施

⑩ 高齢者世話付住宅生活援助員派遣事業

特別養護老人ホームの付帯事業として、高齢者世話住宅付（以下「シルバーハウジング」という。）に生活援助員を派遣し、入居者の安否確認、生活相談を実施し、各関係機関との連携に努め、シルバーハウジング入居者の安全安心な生活の確保に努めた。

- ・市営南山形住宅（G棟） 32世帯のうち、シルバーハウジング10世帯

ア 安否確認

入居者の希望を考慮して確認の曜日を決めながら、電話、インターホン、訪問等で状態の把握に努めた。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
実施日数									19	22	19	20	80日
電 話									29	39	40	45	153回
訪 問									37	19	22	19	97回
インターホン									0	0	0	0	0回
そ の 他									0	0	0	0	0回
計									66	58	62	64	250回

イ 生活相談

毎月相談日（月8時間）を設定して、市営住宅の相談室において生活相談等を行った。生活援助員では対応できない相談については、関係機関と協議して対応した。

内 容	相 談 の 形 態				計
	インターホン	訪 問	相 談 日	そ の 他	
医療・健康	0	0	0	0	0件
福 祉	0	0	0	0	0件
家 族	0	0	0	0	0件
そ の 他	0	4	4	0	8件
計	0	4	4	0	8件

ウ 緊急時対応

緊急時対応は「緊急時対応マニュアル」に基づき、インターホン及び訪問により速やかに状況を確認し迅速適正に対応した。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
実報(時間内)									0	0	0	0	0件
実報(時間外)									0	0	0	0	0件
誤報(時間内)									0	2	1	5	8件
誤報(時間外)									12	11	7	7	37件
計									12	13	8	12	45件

エ 一時的家事援助

市役所における手続き、電話移転の手続き、部屋の物品整理、水道点検（4件）

オ 関係機関との連携

長寿支援課には、毎月実績報告を行い、生活状況や介護状況の悪化など困難なケースが発生した場合は、連携を図り対応した。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
包括支援センター									2	1	0	0	3件
サービス業者									0	0	0	0	0件
地域関係者									0	0	0	0	0件
長寿支援課									1	0	0	0	1件
管理住宅課									0	2	0	1	3件
その他									0	0	0	0	0件
計									3	3	0	1	7件

(2) 菅沢荘ショートステイ（短期入所生活介護事業）

稼働率は70.5%～105%で推移した。月により変動が激しかった。平成24年度の平均稼働率は87.3%で、平成25年度は90.1%と昨年度より若干実績を上げた。実績のわりには収入が伸びず、介護度の低い利用者が多かったことが要因と思われる。送迎数は、月平均118件であり平成24年度の94.8件より多かった。事故報告書を要する事故は6件あったが、保険対応事故は1件であった。

① 利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
延べ人数	576人	584人	573人	543人	558人	514人	478人	423人	533人	609人	589人	590人	6,570人
稼働率	96.0%	94.2%	95.5%	87.6%	90.0%	85.6%	77.1%	70.5%	85.9%	98.2%	105.0%	95.2%	90.1%

② 苦情解決

- 苦情件数は0件であった。

(3) 菅沢デイサービスセンター 通常型・認知症型（通所介護事業）

通常型は平均稼働率79.4%であり、平成24年度の89.9%を大きく下回った。新規利用者より老人保健施設等への入所、入院や死亡者が多かったこと、ショートステイ利用併用者が多かったことが要因と思われる。認知症型の平均稼働率は51.3%で、前年度の58.2%を下回った。

① 利用状況

登録者 通常型：75名（うち予防30名） 認知症型：17名 配食サービス：13名

（平成26年3月31日現在）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均	1日平均
平日通常型 （うち予防）	422 (115)	416 (131)	404 (127)	450 (149)	403 (145)	392 (125)	446 (150)	410 (137)	402 (136)	364 (136)	364 (135)	383 (139)	4,856 (1,625)	404.7 (135.4)	19.6 (6.6)
平日認知症型	110	99	103	107	106	92	115	83	93	82	84	110	1,184	98.7	4.8
祝日通常型 （うち予防）	20 (5)	44 (14)	0	22 (9)	0	37 (14)	20 (7)	21 (10)	20 (8)	22 (9)	18 (5)	22 (9)	246 (90)	20.5 (7.5)	18.9 (6.9)
祝日認知症型	10	15	0	8	0	16	10	8	8	6	5	4	90	7.5	6.9
休日認知症型	20	28	36	29	29	36	29	24	29	25	20	29	334	27.8	6.4
配食サービス	160	188	168	215	199	183	185	177	179	181	161	175	2,171	180.9	9.4

② 選択レクリエーションを行い、機能訓練指導員が個別及び集団の機能訓練を実施した。

③ 健康管理

視診、血圧・体温測定、体重測定、服薬の管理などによる利用者の健康管理と健康指導を行った。

④ 家族との連携

連絡帳及び送迎時の情報交換を通して家族との連携を密にし、信頼関係の形成に努めた。

⑤ 関係機関との連携

居宅介護支援事業所・地域包括支援センターとの連携を密にして適切なサービスの提供に努めた。また、たよりの発行や空き情報の提供にも努めた。

⑥ 栄養管理

利用者の嗜好を大切にしながら、季節の行事食を折り混ぜて満足感の得られる食事の提供に努めた。

- ・季節に合わせたお祝い膳
- ・家族を招いての芋煮会の実施

⑦ 災害訓練

菅沢荘と合同で災害訓練を定期的実施した。

⑧ 主な活動

4月	観桜会、誕生会	10月	芋煮会、誕生会、紅葉狩り
5月	西公園足湯、誕生会	11月	誕生会、外食会（喫茶）
6月	ショッピング、運動会、誕生会	12月	忘年会、誕生会、クリスマス会
7月	あじさい見学（あじさい寺、落合スポセン）、誕生会	1月	初詣、誕生会
8月	カラオケ大会、誕生会	2月	豆まき、誕生会
9月	外食会（回転寿司）、誕生会	3月	レクリエーション、外食会（回転寿司）

⑨ 苦情解決

- ・苦情件数は0件であった。

⑩ 予防給付に係るサービスの実施

(4) 山形西部地域包括支援センター

社会福祉士2名，看護師1名，主任介護支援専門員1名の4名体制で業務にあたった。職員4名が，主たる業務である介護予防プランの作成や圏域内ネットワーク作り，権利擁護等に取り組んだ。

介護予防プランの作成件数については概ね安定してきた。市役所・医師・サービス事業所・利用者・家族・圏域内ケアマネージャー等の圏域内ネットワークの構築については，試行錯誤しながら取り組み，圏域内ネットワーク連絡会の運営にも努めた。西山形地区でのお茶飲みサロンや大曾根さわやか荘・黒沢いこい荘での出前相談も定着してきた。

① 総合相談支援業務

ア 相談関係

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
新規相談件数	42	45	22	34	25	23	22	29	20	12	28	18	320件
連絡調整件数	435	494	389	472	466	358	409	377	387	393	436	460	5,076件
実態把握件数	30	30	24	30	30	19	24	22	23	14	27	25	298件

イ 介護予防等の講話

- 地域のサロン／介護者懇談会等（12回）
- はつらつ生活出前相談開催
黒沢いこい荘会場（12回），大曾根さわやか荘会場（12回）
- 地域の福祉協力員民生委員等研修会（13回）
- 認知症サポーター研修（1回）

ウ 地域との連携

- 包括支援センターネットワーク連絡会開催（6回）
- 民生児童委員定例会参加（15回）／個別情報交換会（12回）
- グループホーム運営推進会議（6回）
- 圏域内施設地域交流会参加（3回）
- 敬老会（1回）／文化祭（1回）
- 介護者サロンいっぶぐ会（10回）

エ 広報活動

- 包括支援センターだよりの発行（4回）

② 権利擁護業務

- 成年後見制度等への対応（1件）
- 高齢者虐待等への対応（5件）
- 消費者被害対応（0件）
- 振り込め詐欺対策事業協賛

③ 包括的・継続的ケアマネジメント支援業務

- 居宅介護支援事業所連絡会開催（4回）／幹事会（4回）

- ・介護支援専門員等への個別支援（13件）
- ・地域ケア会議（6回）

④ 介護予防ケアマネジメント業務等

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
特定高齢者数	21	17	14	14	13	10	13	12	23	24	19	18	198件
予防給付者数	155	154	162	168	175	173	172	173	174	171	168	172	2,017件
（内）委託者数	43	45	48	51	52	53	52	50	51	51	47	50	593件
認定調査件数	13	10	11	9	16	5	6	4	13	6	7	14	114件
住宅改修件数	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	3件

⑤ 苦情解決

- ・苦情件数は0件であった。

(5) 居宅介護支援事業所すげさわ

介護支援専門員4名体制で居宅介護支援事業を行い、サービス提供事業所と連携を図り契約者のニーズに沿った適切なケアプランの作成に努めた。請求件数の月平均は、予防委託を含め138.5件であった。平成24年度の請求件数の月平均が132.8件であったので、実績を若干上回った。地域包括支援センターとともに自事業所へのサービス紹介にも努めた。

・ケアプラン請求件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
請求件数	132	131	128	134	132	134	129	130	125	125	126	128	1,554件
請求保留	6	4	2	0	3	2	6	2	4	2	2	0	33件
予防委託	5	5.5	6	6.5	7	7	7	6	5.5	6	6.5	6.5	74.5件
合計	143	140.5	136	140.5	142	143	142	138	134.5	133	134.5	134.5	1,661.5件

・苦情解決

苦情件数は2件で、いずれも担当介護支援専門員交代の内容であった。

IV 養護老人ホームあたご荘

安全・安心な生活の実現に向けた介護予防のための機能訓練や地域と一体となった防災訓練を実施した。なお、防災訓練では、断水を想定し、市給水車から入所者による荘内への給水リレーを行い災害に備えた。介護予防事業としては、毎朝のリハビリ体操や輪投げ大会等の各種行事、民謡や書道などのクラブ活動、荘内をウォーキングする山形ぐるり旅を実施した。市内を巡る歴史探訪では山形郵便局や洗心庵等の視察・見学を実施した。夏祭りでは児童向けイベントの充実、節分・雛祭りなど各種行事では、塗り絵大会等開催するとともに、これらのイベントにアトラクションを加え企画実施したところ、入所者及び地域の方々からも好評であった。

また、感染症対策として、手洗い・うがい・マスク着用・換気の徹底及び面会者の入室制限等を行った結果、インフルエンザやノロウイルスの発生はなかった。

① 入退所状況 (平成26年3月31日現在)

定員	平成24年度末 在籍者	年度中の増減			平成25年度末 在籍者
		入所	退所	増減	
100人	95人	4人	15人	△11人	84人(男23 女61)

② 在所期間 (平成26年3月31日現在)

性別/期間	～1年	1～4年	5～9年	10～14年	15～19年	20～24年	計	平均期間
男	0	14	6	2	1	0	23人	5年5か月
女	3	36	15	4	1	2	61人	5年2か月
計	3	50	21	6	2	2	84人	5年3か月

※最長在籍20.6年

③ 年齢構成 (平成26年3月31日現在)

性別/年齢	65～69歳	70～74歳	75～79歳	80～84歳	85～89歳	90～94歳	95歳以上	計	平均年齢
男	3	5	5	8	1	1	0	23人	77.9歳
女	1	10	9	11	19	10	1	61人	82.8歳
計	4	15	14	19	20	11	1	84人	81.5歳

※最年長者99歳

④ 委託機関別状況 (平成26年3月31日現在)

委託機関(枠)	男	女	計	委託機関(枠)	男	女	計
山形市(86)	20	56	76人	山辺町(4)	0	2	2人
天童市(3)	1	2	3人	中山町(3)	1	0	1人
東根市(2)	0	1	1人	河北町(1)	0	0	0人
寒河江市(1)	1	0	1人	計(100)	23	61	84人

※中山町は山形市に入所枠3名分を融通している。

⑤ 要支援・要介護の状況 (平成26年3月31日現在)

介護度	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	計
人数	3	6	21	8	10	1	2	51人

⑥ 入退所事由

ア 入所事由

事由/性別	男性	女性	計
経済・環境	1	2	3人
虐待	0	0	0人
他施設・病院からの入所	0	1	1人
計	1	3	4人

イ 退所事由

事由/性別	男性	女性	計
他施設入所等	2	8	10人
死亡	3	2	5人
計	5	10	15人

⑦ 老人一時入所利用状況 (平成26年3月31日現在)

世帯区分	入所延人員	入所延日数
生活保護	3	217
その他	4	75
計	7人	292日

⑧ あたご荘外部サービス利用型特定施設契約者 (平成26年3月31日現在)

介護度	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	計
人数	0	4	11	6	9	1	1	32人

⑨ 外部サービス利用状況 (平成26年3月31日現在)

外部サービス	訪問介護	通所介護	訪問入浴	福祉用具貸与	訪問リハビリ	計
利用者数	24	8	9	19	2	62人

⑩ 無年金者 8人

⑪ 障がい者加算対象者 14人

ア 身体障がい者手帳所持者	0人	エ 療育手帳所持者	3人
イ 精神障がい者保健福祉手帳所持者	4人	オ その他(診断書)	3人
ウ 障がい年金受給者	4人		

⑫ 健康管理

ア 往診

内科 月2回 精神科 月2回 皮膚科 月1回 整形外科 月1回

イ 入院状況

(平成26年3月31日現在)

	内科	外科	循環器科目	精神科	その他	計
延べ人数	14	3	1	19	4	41人

ウ 健康診断 年2回 5月, 12月(血液, 尿検査)

エ インフルエンザ予防接種

オ 肺炎球菌予防接種

カ 機能訓練の実施

- 理学療法士による指導 月1回実施
- リハビリ体操 毎朝実施

キ 口腔ケア 夕食後（介助者のみ）

ク 体重測定 毎月1回

ケ 血圧測定 毎月1回

⑬ 主な行事等

4月	風呂の日（温泉）	8月	教養講話会	12月	クリスマス行事
5月	日帰り旅行（年3回）	9月	敬老祝賀会	1月	新年行事
6月	県養護老人ホーム輪投げ大会	10月	県養護老人ホーム芸能祭	2月	節分豆まき・的当てゲーム
7月	夏祭り	11月	防災訓練（年4回）	3月	お雛さまフェスタ

※歴史探訪・買物ツアー（5, 6, 9, 11月）、街なか探訪（5, 7, 11月）

⑭ 食事形態

食事形態	一 般 食					特 別 食	
	普通食	全 粥	刻 み 食	極 刻 み	ミキサー食	減 塩 食	糖 尿 食
主 食	42人	41人	-	-	1人	5人	7人
副 食	34人	-	35人	14人	1人		

⑮ クラブ活動

クラブ名	華 道	民 謡	書 道	大人の塗り絵	昔語りの会	映 写 会
回 数	4回	11回	5回	8回	12回	11回

⑯ 苦情解決 なし

⑰ しらゆき会（山形大学医学部への献体）入会者 2人

⑱ 面会状況 1,083人（月平均90人）

⑲ 荘長と語る会 6回（各通りごと開催）

⑳ アンケートの実施 2回（食事・職員対応、建物施設管理）

㉑ 災害及び事故防止

ア 防災訓練

- 火災想定 6月17日
- 土砂災害想定（町内会及び近隣施設等合同） 9月2日
- 断水想定 11月7日
- 地震想定（町内会及び近隣施設等合同） 3月18日

イ 安全点検 毎月実施

㉒ 実習生受け入れ 6人

東北文教大学短期大学部人間福祉学科 2人（6月17日～6月22日）

東北文教大学短期大学部人間福祉学科 2人（7月1日～7月6日）

山形大学地域教育文化部 2人（7月22日～7月26日）

V ヘルパーステーションあたご

サービス提供責任者と兼務の職員が業務を担当した。

利用対象者への心身の状態把握と感染症予防に配慮し、入浴介助、食事介助、排泄介助、口腔ケア等を実施し、施設での自立した生活ができるよう援助に努めた。

・要介護者

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
排泄介助	19	17	15	16	19	18	17	16	17	17	18	17	206人
食事介助	2	2	1	1	2	2	2	2	2	3	3	2	24人
口腔ケア	9	9	9	9	8	6	6	7	6	7	8	8	92人
入浴介助	10	9	9	10	10	11	9	9	10	10	11	13	121人
通院介助	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0	0	0	9人
計	41	38	35	37	40	38	35	35	36	37	40	40	452人

・要支援者

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
入浴介助	1	1	1	1	1	2	2	2	2	3	2	3	21人

VI 居宅介護支援事業所あたご荘

専任、兼任2名の介護支援専門員を配置し、ニーズに応じた適正なケアプランを作成し、自立した生活を送ることができるようモニタリングを行うとともに、状態に変化があった場合にはサービス担当者会議を開きケアプランを変更する等、在宅生活を継続できるよう支援に努め、利用者、介護者からも信頼を頂くことができた。

・ケアプラン請求件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
請求件数	41	41	36	41	41	43	44	43	41	39	40	42	492件
予防件数	5	8	8	8	8	9	9	9	6	6	6	6	88件
合計件数	46	49	44	49	49	52	53	52	47	45	46	48	580件

・更新調査

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
件数	4	0	2	2	1	5	5	0	3	2	0	5	29件

VII たきやま地域包括支援センター

滝山地区の高齢者が住み慣れた地域で、尊厳あるその人らしい生活が継続できるよう、総合相談・支援、権利擁護、包括的・継続的ケアマネジメント支援といった機能を担い、この地区を圏域として以下の事業を実施した。なお、民生委員定例会議、地区社会福祉協議会幹事会、地域団体会議への参加及び包括支援センター主催会議、介護支援専門員連絡会を開催し、情報・相談が寄せられやすい環境を創るとともに、虐待ケース等についての相談にも対応した。また、介護予防の集い、いきいきサロンでの健康講話・運動指導を実施し、包括支援センターだよりの発行により、認知症予防・感染症予防等について周知、啓発した。

① 総合相談支援業務

ア 相談関係

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
新規相談件数	17	26	25	25	23	21	30	36	21	30	29	29	312件
連絡調整件数	451	522	547	490	507	405	593	616	552	621	563	580	6,447件
実態把握件数	12	19	8	14	15	9	23	20	13	20	19	15	187件

イ 介護予防

- 介護予防の集い（6回）
- いきいきサロン等（13回）
- 認知症サポーター養成講座（2回）

ウ 地域との連携

- 包括支援センターネットワーク連絡会（2回）
- 民生委員定例会等（12回）
- 福祉協力員大会・研修会（3回）
- グループホーム運営推進会議（6回）
- 滝山地区福祉推進会議（1回）
- 滝山地区社会福祉協議会幹事会（2回）
- 小規模多機能型居宅介護・地域密着型介護老人福祉施設運営推進会議（16回）
- その他の地域関係者・団体等が主催する会議等（4回）

エ 広報活動

- 包括支援センターだよりの発行（4回）

② 包括的・継続的ケアマネジメント業務等

- 滝山地区介護支援専門員連絡会（2回）
- 介護支援専門員への個別支援（13回）

③ 介護予防ケアマネジメント業務等

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
二次予防事業利用者数	15	12	12	13	14	11	6	13	13	15	12	15	151件
予 防 給 付 数	160	163	157	161	167	165	171	169	179	171	165	165	1,993件
(内)委 託 数	46	53	55	54	55	58	61	61	68	63	60	60	694件
認定調査件数	11	11	8	6	13	12	9	3	15	3	7	12	110件
住宅改修件数	0	0	0	0	1	1	0	0	1	1	0	0	4件

VIII 銅町デイサービスセンター

稼働率が72.8%と目標85%に届かなかった。平日については稼働率75.0%、平均利用者数も22.7人だったが、全体的に稼働率が延びず目標に届かない状況となった。継続して居宅介護支援事業所及び地域包括支援センターと継続して連携を図り、利用者の新規獲得に努めた。

サービス面では、利用者個別に通所介護計画書、介護予防通所介護計画書を作成し、利用者の利用目的を達成することができた。また、楽しく過ごして頂けることを目指してサービスの提供に努めた。

① 利用状況

(平成26年3月31日現在)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均	1日平均
平日	491	480	473	540	486	439	481	428	409	428	429	462	5,546	462.2人	22.7人
日曜日	79	81	96	77	72	94	70	67	79	78	80	98	971	80.9人	19.0人
祝日	21	49	0	23	0	38	24	22	16	20	18	23	254	21.2人	16.9人
合計	591	610	569	640	558	571	575	517	504	526	527	583	6,771	564.3人	21.8人

② 利用者拡大対策

- ア 各居宅介護支援事業所、地域包括支援センターとの連携強化
- イ シルバーハウジング入居者の利用開拓

③ ケアプランに添ったサービスの提供

ケアプランに基づいた通所介護計画書、介護予防通所計画書を作成し、利用目的を達成できるよう努めた。

④ 健康管理

- ア 視診・血圧・体温の測定、服薬の管理等による利用者の健康管理と健康指導を行った。また、必要に応じて医師への報告を行った。
- イ レジオネラ菌検査（年2回）及び残留塩素濃度の測定管理の実施により安全な浴槽水の確保に努めた。

⑤ 機能訓練

リハビリ委員会を中心に個別、全体を含め、身体機能の維持回復に努めた。
リハビリ体操は毎日2回（午前・午後）実施し、更に転倒予防体操の内容を変更して実施した。

⑥ 家族との連携

連絡帳の活用及び送迎時の情報交換等を通し、家族との連携を密にし、信頼関係の形成に努めた。

⑦ 関係機関との連携

各居宅介護支援事業所、地域包括支援センターとの連携を密にし、適切なサービスの提供に努めた。

⑧ 栄養管理

毎月給食委員会を開催し、家庭の味を大切に、食べる楽しみと季節の変化を感じられる

食事の提供に努めた。

⑨ 主な活動

- ア 誕生会（毎月第4週を基本に1週間）
- イ 季節の行事（節分・ひなまつり・観桜会・紅葉ドライブ・クリスマス等）
- ウ 全体レクリエーション（ボランティアの出し物・カラオケ・パターゴルフ・頭の体操・すき焼きジャンケンゲーム等）
- エ 個人レクリエーション（将棋・トランプ・オセロ・ちぎり絵・書道・創作活動等）

⑩ 利用者家族及び地域への広報

広報委員会で内容を検討し、センターだより「あかしや」を毎月、「せせらぎ」を年1回発行した。

⑪ 地域交流

- ア 地域交流室の利用 ボランティア，慰問団の控え室等として常時利用
- イ 地域のボランティア活動 54回
- ウ 地域の慰問団 60回
- エ 介護体験学習 14名

⑫ 災害訓練

- ア 避難訓練，消火訓練，通報訓練，住宅との合同訓練及び消防用設備等の点検（年2回）
- イ 緊急時の体制確立

⑬ 職員研修

- ア 外部研修 16件 16名
- イ 内部研修 12件 130名

⑭ 苦情解決の取り組み

- ア 「ご意見箱」の設置
- イ センターだよりによる苦情受付体制の周知
- ウ 苦情 3件（すべて解決）
 - ・職員に関すること 1件
 - ・その他 2件

高齢者世話付住宅生活援助員派遣事業

通所介護事業の付帯事業として生活援助員を派遣し、高齢者世話付住宅（以下「シルバーハウジング」という。）の入居者の安否確認，生活相談を実施し，各関係機関との連携に努め，シルバーハウジング入居者の安全安心な生活の確保に努めた。

- ・市営銅町住宅 118世帯のうち，シルバーハウジング36世帯
- ・市営薬師町住宅 60世帯のうち，シルバーハウジング18世帯

① 安否確認

平日は毎日実施を基本に，利用者の希望を考慮して確認の曜日を決めながら，インターホン，訪問等で状態の把握に努めた。

〈銅町住宅〉

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
実施日数	21	21	20	22	22	19	22	20	20	19	19	20	245日
インターホン	320	326	301	328	314	277	315	296	312	287	287	301	3,664回
訪 問	12	21	8	15	12	7	2	1	2	0	3	0	83回
そ の 他	1	0	0	1	5	0	0	0	0	0	0	0	7回
計	333	347	309	344	331	284	317	297	314	287	290	301	3,754回

〈薬師町住宅〉

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
実施日数	21	21	20	22	22	19	22	20	20	19	19	20	245日
インターホン	114	131	129	119	123	116	155	130	139	113	104	102	1,475回
訪 問	20	17	11	28	17	22	15	12	13	11	8	10	184回
そ の 他	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	2回
計	134	148	140	148	140	138	170	142	152	125	112	112	1,661回

② 生活相談

毎月相談日（月8時間）を設定して、各市営住宅の相談室において生活相談等を行った。生活援助員では対応できない相談については、関係機関と協議して対応した。

〈銅町住宅〉

内 容	相 談 の 形 態				計
	インターホン	訪 問	相 談 日	そ の 他	
医療・健康	1	6	1	7	15件
福 社	1	0	0	0	1件
家 族	1	0	0	0	1件
そ の 他	15	10	7	4	36件
計	18	16	8	11	53件

〈薬師町住宅〉

内 容	相 談 の 形 態				計
	インターホン	訪 問	相 談 日	そ の 他	
医療・健康	0	0	1	0	1件
福 社	0	3	1	0	4件
家 族	0	0	0	0	0件
そ の 他	3	10	13	1	27件
計	3	13	15	1	32件

③ 緊急時対応

緊急時対応は「緊急時対応マニュアル」に基づき、インターホン、電話及び訪問により速やかに状況を確認し迅速適正に対応した。夜間及び休日の緊急時対応は、各シルバーハウジングとも警備会社に通報を委託し、連絡を受けた職員が迅速に対応した。

〈銅町住宅〉

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
実報(時間内)	0	0	1	0	0	0	3	0	0	0	0	0	4件
実報(時間外)	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1件
誤報(時間内)	1	0	1	0	0	0	0	0	1	1	0	0	4件
誤報(時間外)	2	0	1	2	1	2	1	0	0	0	0	0	9件
計	3	0	3	2	1	2	4	1	1	1	0	0	18件

〈薬師町住宅〉

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
実報(時間内)	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	2件
実報(時間外)	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1件
誤報(時間内)	0	1	0	1	0	1	0	0	0	1	1	0	5件
誤報(時間外)	0	1	2	3	0	0	1	1	1	2	2	2	15件
計	1	2	2	4	1	1	1	1	1	4	3	2	23件

④ 一時的家事援助

〈銅町住宅〉

- 書類の記入, エアコンフィルターの掃除及び使い方, 空き缶捨て, テレビの調整, インターホンの受話音量調整, 蛍光灯交換, 押入れ整理, タクシー手配

〈薬師町住宅〉

- 電池交換, IHの焦げとり, 電球・蛍光灯交換, 灯油タンクの上げ下ろし

⑤ 関係機関との連携

長寿支援課には, 毎月入退院者及び死亡者等の状況報告を行い, 生活状況や介護状況の悪化など困難なケースが発生した場合は, 連携を図り対応した。

〈銅町住宅〉

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
包括支援センター	2	0	4	0	0	0	1	1	1	1	0	0	10件
サービス業者	0	0	0	2	3	0	1	1	0	0	0	0	7件
地域関係者	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1件
長寿支援課	2	0	1	2	2	0	3	2	1	2	3	2	20件
管理住宅課	0	2	3	0	3	0	1	2	1	4	4	1	21件
その他	0	0	3	0	0	1	3	5	2	1	1	0	16件
計	4	2	11	4	8	1	10	11	5	8	8	3	75件

〈薬師町住宅〉

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
包括支援センター	11	4	3	1	1	2	4	5	0	1	0	0	32件
サービス業者	0	1	2	0	0	0	0	1	0	1	1	2	8件
地域関係者	2	1	0	0	0	0	0	1	1	1	0	2	8件
長寿支援課	6	1	2	3	2	1	1	3	2	3	1	0	25件
管理住宅課	0	1	0	0	1	0	0	0	0	1	0	2	5件
その他	6	2	1	7	3	1	0	2	0	2	0	1	25件
計	25	10	8	11	7	4	5	12	3	9	2	7	103件

IX 居宅介護支援事業所どうまち

介護保険制度の中核を担う事業として、専任の介護支援専門員1名を配置し、利用者、地域及び他の施設等から信頼を得られるよう努め、請求件数の向上を図った。また、要介護認定調査業務や地域包括支援センターからの介護予防ケアプラン作成業務を積極的に受け入れ、公正中立な立場に立ち、サービス提供事業者との連携に努め、契約者のニーズに沿った適切なケアプランの作成を行った。

• ケアプラン請求件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
介護件数	33	31	32	34	32	34	31	28	30	32	32	29	378件
予防件数	9	8	8	8	7	7	6	6	6	6	6	6	83件
合計件数	42	39	40	42	39	41	37	34	36	38	38	35	461件

• 更新調査

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
件数	3	2	3	3	5	2	2	0	3	1	0	1	25件